

表 1. プログラムの改定内容

	旧プログラム	新プログラム	変更点
第1週目	自己紹介 — 共通する問題 ワークショップの概要と責任 急性と慢性の病気の違い 症状管理と気を紛らわせるために心の活用 アクションプランの紹介 まとめ	ワークショップの概要 自己紹介 体とところのつながり/気を紛らわせる方法 良い睡眠 アクションプランの紹介 まとめ	変更 変更 変更 追加
第2週目	フィードバック/問題解決法 困難な感情への対処法 体を動かすことや運動の紹介 アクションプラン まとめ	フィードバック/問題解決 困難な感情への対処法 運動の紹介① コミュニケーション技術 アクションプラン まとめ	名称変更 4週目から移動
第3週目	フィードバック/問題解決法 よい呼吸法 筋肉のリラクゼーション 痛みと疲労の管理 持久力をつける運動 アクションプラン まとめ	フィードバック よい呼吸法 筋肉のリラクゼーション 痛みと疲労の管理 運動の紹介② 医療に関する将来計画 アクションプラン	名称変更 4週目から移動
第4週目	フィードバック/問題解決法 医療に関する将来計画 健康な食事 コミュニケーション技術 問題解決法 アクションプラン まとめ	まとめ フィードバック 意思決定 薬の使い方 健康な食事 お口の健康 アクションプラン まとめ	追加 5週目から移動 追加(日本独自)
第5週目	フィードバック/問題解決法 薬の使い方 十分な知識を得た上での意思決定 うつ状態の管理 肯定的な考え方 イメージ法 アクションプラン まとめ	フィードバック うつ状態の管理 肯定的な考え方 十分な情報を得た上での意思決定 災害への備え 問題解決法 アクションプラン まとめ	追加(日本独自) 4週目から移動
第6週目	フィードバック/問題解決法 医療者と一緒にやっていくこと 振り返り、将来に対する計画 まとめ	フィードバック 医療者と一緒にやっていくこと 体重の管理 振り返りと将来へ向けての計画 まとめ	追加

表 2. 分析対象者の属性・特性

	旧プログラム受講者 (N=97)		新プログラム受講者 (N=26)		p値
	度数	( % )	度数	( % )	
性別 (=女性)	76	( 78.4 )	21	( 80.8 )	n.s *1
年齢 平均 (標準偏差)	47.5	( 13.3 )	47.0	( 14.3 )	n.s *2
教育 (=大卒以上)	30	( 30.9 )	14	( 53.8 )	0.039 *1
配偶者の有無 (=有)	43	( 44.3 )	12	( 46.2 )	n.s *1
仕事の有無 (=有)	49	( 51.6 )	15	( 57.7 )	n.s *1
最も長期間持っている疾患					0.0028 *1
筋骨格系および結合組織の疾患	23	( 23.7 )	8	( 30.8 )	*1
内分泌, 栄養および代謝疾患	10	( 10.3 )	3	( 11.5 )	*1
神経系の疾患	4	( 4.1 )	4	( 15.4 )	*1
精神及び行動の障害	6	( 6.2 )	1	( 3.8 )	*1
皮膚及び皮下組織の疾患	1	( 1.0 )	4	( 15.4 )	*1
その他	14	( 14.4 )	3	( 11.5 )	*1
不明	39	( 40.2 )	3	( 11.5 )	*1
疾患発症後の期間(年) 平均 (標準偏差)	11.6	( 11.3 )	20.1	( 14.6 )	0.0117 *2

\*1: Fisherの正確確率検定

\*2: Welchのt検定

表 3. 新プログラム受講者の受講前後の変化(新プログラム独自の指標)

	受講前		受講後		p値
	度数	( % )	度数	( % )	
睡眠時間 平均(標準偏差)	6.63	( 1.43 )	6.13	( 1.16 )	0.0618 *1
不眠					1 *2
問題なし	12	( 46.2 )	13	( 50.0 )	
不眠症の疑いあり(6点以上)	12	( 46.2 )	12	( 46.2 )	
無回答	2	( 7.7 )	1	( 3.8 )	
歯磨き頻度					0.7897 *3
3回以上	10	( 38.5 )	10	( 38.5 )	
2回	15	( 57.7 )	14	( 53.8 )	
1回	1	( 3.8 )	2	( 7.7 )	
時々磨く	0	( 0.0 )	0	( 0.0 )	
磨かない	0	( 0.0 )	0	( 0.0 )	
歯ブラシ以外の清掃補助用具の使用					1 *2
使っている	11	( 42.3 )	11	( 42.3 )	
使っていない	15	( 57.7 )	15	( 57.7 )	
BMI 平均(標準偏差)	20.9	( 4.0 )	21.1	( 4.3 )	0.8924 *1

\*1: Welchのt検定

\*2: Fisherの正確確率検定

\*3: Wilcoxonの符号順位検定

表 4. 新プログラム受講者の受講前後の変化(旧プログラムと共通の効果指標)

	受講前		受講後		p	効果量
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
健康状態の自己評価	3.1	1.1	3.0	1.0	0.559 <sup>*1</sup>	0.12
不安	8.4	4.9	7.3	4.0	0.178 <sup>*1</sup>	0.27
抑うつ	8.5	5.0	8.0	4.5	0.646 <sup>*1</sup>	0.09
健康状態に対する悩み	1.9	1.4	1.4	0.9	0.052 <sup>*1</sup>	0.38
QOL	3.1	0.6	3.2	0.6	0.464 <sup>*1</sup>	0.15
認知的対処	1.6	1.0	1.7	1.1	0.325 <sup>*1</sup>	0.20
運動時間(時間/週)	140.6	138.7	119.3	131.3	0.236 <sup>*1</sup>	0.24
医師とのコミュニケーション	2.0	1.2	2.3	1.3	0.313 <sup>*1</sup>	0.20
服薬アドヒアランス	45.0	14.4	47.2	11.3	0.325 <sup>*1</sup>	0.20
自己効力感	5.7	2.4	5.7	2.2	0.958 <sup>*1</sup>	0.01
SOC	51.4	16.0	52.8	14.2	0.310 <sup>*1</sup>	0.20

\*1: 受講前後の変化量の1変量のt検定(帰無仮説は変化量の平均=0)

表 5. 新旧プログラム受講前後の効果指標の変化の比較

	旧プログラム				新プログラム				新旧 の比較	
	受講前		受講後		受講前		受講後		p値	効果量*2
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
健康状態の自己評価	3.6	0.9	3.4	1.0	3.1	1.1	3.0	1.0	0.53 *1	-0.07
不安	7.3	4.9	7.5	5.1	8.4	4.9	7.3	4.0	0.14 *1	0.14
抑うつ	8.1	4.9	7.6	4.8	8.5	5.0	8.0	4.5	0.99 *1	0.00
健康状態に対する悩み	2.6	1.4	2.0	1.3	1.9	1.4	1.4	0.9	0.62 *1	-0.05
QOL	3.0	0.6	3.0	0.6	3.1	0.6	3.2	0.6	0.91 *1	0.01
認知的対処	1.0	0.6	1.2	0.8	1.6	1.0	1.7	1.1	0.45 *1	-0.06
運動時間(時間/週)	111.3	119.2	130.0	140.7	140.6	138.7	119.3	131.3	0.06 *1	-0.15
医師とのコミュニケーション	2.0	1.2	2.2	1.3	2.0	1.2	2.3	1.3	0.82 *1	0.02
服薬アドヒアランス	46.2	9.2	46.7	10.9	45.0	14.4	47.2	11.3	0.48 *1	0.08
自己効力感	5.1	2.2	5.5	2.1	5.7	2.4	5.7	2.2	0.22 *1	-0.10
SOC	55.7	14.4	55.7	14.7	51.4	16.0	52.8	14.2	0.41 *1	0.06

\*1: 受講前後の変化量をWelchのt検定で比較

\*2: 正の値は新プログラムの方が良好, 負の値は旧プログラムの方が良好であることを示す

# III. 研究成果の刊行 に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
谷口正実 福富友馬 (監修)	吸入性アレルギーの同定と対策	谷口正実 福富友馬	吸入性アレルギーの同定と対策	メディカルレビュー社	東京	2014	全64頁
谷口正実 秋山一男	I. アレルギー総論 概念、病態、メカニズム	大久保公裕	イチから知りたいアレルギー診療	全日本病院出版協会	東京	2014	2-5
福富友馬	ペットアレルギー	大久保公裕	イチから知りたいアレルギー診療	全日本病院出版協会	東京	2014	142-146

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
福富友馬	真菌に対する免疫学的臨床検査の実情	アレルギーの臨床	34 (8)	44-48	2014
福富友馬	II 食物アレルギーの発症メカニズム1. 経皮感作	アレルギー・免疫	21 (6)	18-25	2014
福富友馬	アレルギーの特徴と免疫療法	アレルギー・免疫	21 (7)	22-28	2014
福富友馬	成人の食物アレルギー	日本医師会雑誌	143 (3)	558-559	2014
Fukutomi Y, Taniguchi M, Nakamura H, Akiyama K	Epidemiological link between wheat allergy and exposure to hydrolyzed wheat protein in facial soap.	Allergy	69(10)	1405-1411	2014
Takahashi K, Taniguchi M, Fukutomi Y, Sekiya K, Watai K, Mitsui C, Tanimoto H, Oshikata C, Tsuburai T, Tsurikisawa N, Minoguchi K, Nakajima H, Akiyama K	Oral Mite Anaphylaxis Caused by Mite-Contaminated Okonomiyaki/Pancake-Mix in Japan: 8 Case Reports and a Review of 28 Reported Cases.	Allergol Int.	63(1)	51-6	2014

(次頁つづく)

(前頁よりつづき)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Minami T, Fukutomi Y, Lidholm J, Yasueda H, Saito A, Sekiya K, Tsuburai T, Maeda Y, Mori A, Taniguchi M, Hasegawa M, Akiyama K	IgE Abs to Der p 1 and Der p 2 as diagnostic markers of house dust mite allergy as defined by a bronchoprovoca- tion test	Allergol Int.	64(1)	90-95	2015
Minami T, Fukutomi Y, Saito A, Sekiya K, Tsuburai T, Taniguchi M, Akiyama K	Frequent episodes of adult soybean allergy during and following the pollen season	J Allergy Clin Immunol Pract	3(3)	441-442	2015



厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等克服研究事業

(難治性疾患等政策研究事業(免疫アレルギー疾患等政策研究事業 免疫アレルギー疾患政策研究分野))

免疫アレルギー疾患予防・治療研究に係る企画及び評価の今後の方向性の策定に関する研究

平成 26 年度 総括・分担研究報告書

平成 27 年 3 月 31 日

研究代表者 神奈川県相模原市南区桜台 18 - 1  
独立行政法人国立病院機構相模原病院  
長谷川 眞紀

